



交通の未来へ

立ち上がれ若手社員！

■2020年は全ての人にとって激動の1年であった。国内では1月16日に初めて新型コロナウイルスの感染者を確認して以降、クルーズ船でのクラスターや全国一斉休校、史上初の緊急事態宣言、第二波・第三波による状況の急変など、わずか1年のこととは思えない出来事ばかりであった。特に4月～5月にかけての全国を対象とした移動の自粛では公共交通機関では利用者が対前年で90%以上減少し、全国の町から賑わいが消えた。このダメージは大きく、将来にわたって傷跡を残すことになると予測される。

■2021年は今年と比べると回復傾向になるかと思われるが、暮らしの足には2020年に受けたダメージの「ツケ」が回ってくることであろう。現段階では終電の繰り上げなどが話題となっているが、この他にも聖域なき大規模な減便や路線の縮小はまず避けられないであろう。多くの産業でビジネスモデルの転換が求められるようになっているが、長い年月をかけて確立した輸送体系や巨大な施設を抱える運輸業で迅速な対応を求めるのは困難なことである。

■また、もう1つ心配事がある。交通業界は今後、このような極端な変化に対応し、生き残っていけるのか？ということである。交通業界、特に道路旅客運送業を見つめると全産業や他の交通業界と比べても平均年齢が極めて高い。表を見ても明らかなおと、全産業の平均よりも10歳以上高い55歳前後と、とても高齢化した世界だ。筆者は30歳なので、周りは自分の父親かそれ以上の人がほとんどの状態、というのだから驚く。実際にバスドライバーやタクシードライバーの高齢化が社会問題となっているが、このように平均年齢が極端に高くなると技術革新や変化への対応も弱くなっていく傾向にある。こうなると、変化に対応できないまま衰退に拍車がかかることになり、若い人もますます寄り付かなくなり、最終的には利用者も担い手も消えて町からバスやタクシーが消える、ということになる。医療崩壊が頻繁に叫ばれるが、その影では交通崩壊が恐ろしいスピードで進んでいる。果たして今後、自由にお出かけ出来る世の中は保証されるのか。

道路旅客運送業はダントツに高齢化が進む

	男性	女性
全産業計	43.3	41.1
鉄道業	40.6	32.1
道路旅客運送業	55.1	45.8
道路貨物運送業	46.6	44.2
水運業	43.7	40.1
航空運輸業	43.9	42.5

※「賃金構造基本統計調査」平成29年より

■コロナ禍では緊急事態宣言時を筆頭に、人の移動が強く制限されることとなった。それは人の移動を商売としている交通業界にとっては息を止められていることに等しい。しかし、このような危機的状況でも見渡してみると希望のある活動が見て取れる。特に **web** を駆使した若い社員の活躍が目立ったように見える。具体的には Youtube など動画配信サイトを通じて、気軽にバスや観光情報について知ってもらう取り組みを進めていたり、リアルで開催できない代わりにオンラインで祭りを開催したりと従来にはない発想とツールを活用した情報発信が活発化している。交通業界では長きにわたり実際に乗ってもらうことに重きを置いていたため、このような動画配信や **web** を駆使したマーケティングには遅れをとっていた。しかし今後は極端な話、このように実際に利用せずともコミュニケーションが生まれたり、収益に繋げていく新しいビジネスモデルが生まれてくるかも知れない。その重要な役割を担うのは間違いなく柔軟な発想を持った「活力ある若手社員」である。パソコンやスマホが当たり前の環境で育った 20代・30代の力は交通の、そして将来の「希望」である。前例に捉われずに新しいことにチャレンジしていく。何十年も言われていることかも知れないが、待たなしの状況下での挑戦に期待したい。少数派で社会経験が乏しいのでどうしても「おじさん」に遠慮してしまうかも知れないが、そんな必要はないし猶予もない。2020年は交通が大きく進化するスタート地点だったと思えるよう、筆者も走り続ける所存である。



↑Youtube やオンラインフェスなどを通じて、自宅にいながらも乗り物に親しんでもらおうという取り組みが活発化。これら新しい技術の取り込みには従来の常識に捉われない若い力が必要不可欠。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)
 事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502
 E-mail: info@racda-okayama.org
 URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA
検索

